

会議議事録

事業名	平成26年度「職業実践専門課程」の推進を担う教員養成モデルの開発・実証
代表校	一般社団法人 全国専門学校教育研究会

会議名	第5回 AL分科会
開催日時	平成26年12月15日(月) 16:30~18:30(2h)
場所	グランドヒル市ヶ谷 2階「琵琶」
出席者	<p>①委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小林昭文、信岡誠三、長谷川綾子 永井真介、岡村慎一、伊藤慎二郎、飯塚正成、 (計7名) <p>②オブザーバー</p> <p style="padding-left: 20px;">なし</p> <p>③事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下島耕一(計1名) (参加者合計8名) <p>議 事</p> <p>1) 開会</p> <p>2) 研究事業検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実証講座テキストの確認 ■実証講座当日について <ul style="list-style-type: none"> ・スケジュールの確認 ・レイアウトについて ■今後の日程確認 <p>3) 閉会</p>

<p>議題</p>	<p>実証講座テキストの確認</p> <p>小林先生より 初日は3パートに分かれる 二日目は、ALセッションの体験</p> <p>テキストを基に、ページ毎に確認作業を行う 「AL授業体験と振り返り」 P2、ALに関する最新ニュース P7、コルブの経験学習モデル、安心安全の環境 P12、現在の文科省の動き P14、小林先生の授業の紹介 P17、成果についての説明 P19、物理の授業について P36からP41までは、説明用テキストだが、別刷りで配布 P23、一番重要な部分「振り返り」 みんなの意見を持ち寄って、気づきの参考に P24、この部分は読んでもらうだけで良い P29、授業改善が求められる根本的な理由について、専門学校向け にピターセンゲの話を入れて集中的に説明 振り返りを行い、1パート終了</p> <p>「ALにおける教師介入の構造」 要所を説明する P42、質問によるグループへの介入 教師の役割 定例介入の概要 定例介入の構造 P52、補足資料 基礎スキルの低い先生に役立つ メンタリング・プロセス 状態別介入、タイプ別介入、選択理論の原則 について説明、2パート終了</p>
-----------	---

「授業研究と振り返り会」

P58、振り返り会の方法

授業者を傷つけない、参加者全員がヒントを得る

P59、司会者の為のSCRIPT

P60、研究授業見学用ワークシート

P62、振り返りの為のリフレクションカード

最後に授業者向けに書いてもらうラブレターの準備

初日終了

P67、ALについて

P73、日向野先生について説明

P74、ALセッションのルール、規範、質問力向上のコツ

ALセッションを繰り返し行う

最後にこれからの計画を立ててもらう為のワークシートを用意

これに対する質問、意見

- ・テキストとは別に、配布する物を整理する必要
- ・職業実践専門課程の話が出るのが遅すぎる（P67）ので、初日の会長挨拶のすぐ後に入れるべき
- ・二日目最後のワークシートは提出させるだけなのか、検討する時間はあるか
- ・5グループに小林先生一人で介入するのか？
コーチングスタッフを連れてくる
- ・発達障害等の学生が増えている、その対策や相談方法
公的機関の利用方法の説明
- ・グループ学習出来ない学生への対応の仕方
- ・目次を見ただけでは、ALの実証講座とは思えないので工夫を
- ・文科省に提出する成果物としては少し弱い
- ・配布資料、ワークシートなど補助資料の整理がついてない
- ・タイムテーブルを作成すればそれがそのまま実施マニュアルになる

「成果物」について

- ・実証講座で使用するテキストがそのまま成果物になる
- ・実証講座の受講生には解り易いテキストと思うが、何もかもが一冊に集約されている（テキスト、マニュアル、シラバス、カリキュラム）第三者が使用する時、今のままでは使えない。成果物は、誰でも実践できるテキスト、マニュアルでないといけない。
- ・2月6日の報告会には、成果物の完成形が必要
- ・著作権については、全専研はいらないので、小林先生で利用されて全国に広めていただければ良い。

実証講座当日について

- 1, 教室のレイアウト
- 2, グループ分けの方法
事務局担当（女性を一人は入れる、同じ学校の人を分ける）
3. 二日間とも同じメンバーの予定だが、途中でシャッフルするかも
- 4, 参加者との懇親会は予定していない
- 5, 備品（パソコン、プロジェクタ、スクリーン、付箋紙（3色）セロテープ、模造紙各1枚、ホワイトボード、マイク）の用意
6. 全員がスクリーンを見れるレイアウト
- 7, ビデオの位置確認
- 8, 実証講座用テキスト、資料の印刷の役割分担
- 9, コーチングスタッフ（高校教師）の名前を事前に事務局へ
2日目に小林先生から紹介
- 10, 受講生が事前に行っている学習のデータの取り扱い
- 11, 実証講座のタイムスケジュール

今後のスケジュール確認

- 1、2月5・6日のスケジュール
- 2、来年の実施等に関して、2月5・6日で発表できるように
- 3、来年実施する場合、同じ参加者なら、1年間やってみて、問題点等発表して、皆でディスカッション
- 4、報告会に向けてのタイムスケジュール
- 5、全専研の研修と関連させて

以上